

潮来市の誇れる自然

第89回

水郷の魚たちー シラウオの生物学

近年、霞ヶ浦北浦では水産有用種のうちワカサギやエビ類、ハゼ類などの漁獲量が減少しつつ、厳しい状況ですが、シラウオだけが年間150トン以上で安定的に推移しており、その動向に注目が集まっています。今回はシラウオの生物学を掘り下げてみます。

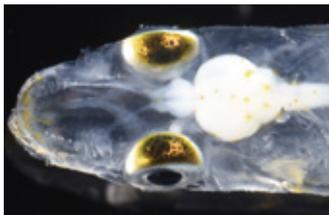
生きているシラウオは体が半透明で、生鮮時標本でも体内の構造がわかるほどです(写真1)。透けて見える脳のかたち(写真2)は「あおいの御門」に見立てられ、徳川家康が好んで食したとされます。漁獲してほんの少し経つと、和名の通り体が白っぽくなり、白い皿の上では黒い目だけが目立ちます(写真3)。まだ透明感のある白さの生シラウオは絶品です。英名はCelsinですが、分布は寒冷地に限らず、国内では北海道から九州北部までと広めです。

今年3月、文化庁の「100年フード」に「霞ヶ浦北浦の魚介類食文化(佃煮・煮干し・釜揚げ)」が認定されました。水郷のシラウオを将来世代へと食べ継いでいくためには、産卵場所となる浅所の砂地を保全・再生することが急務です。

茨城大学地球・地域環境共創機構
水圏環境フィールドステーション
加納光樹



(写真1) シラウオの成魚(雄) 生鮮時は半透明



(写真2) シラウオの頭



(写真3) 生シラウオは絶品

地域おこし協力隊通信

第71回



新たに潮来市
地域おこし協力隊に
とうしようしゅうけい
東條秀祐さんが
着任しました。

大学院生として挑む まちづくりの研究と実践

大学院で都市計画を学ぶ中で、実際の地域課題に即した研究を進めるとともに、学んだ知識を社会で活かしたいと考えていました。そんな時、「潮来市地域おこし協力隊」の募集を知り、本格的にまちづくりに関わる貴重な機会だと思い応募しました。

これまでも学生団体や研究室を通じて地域に関わり、住民の方々との交流や地域文化の発信にやりがいを感じてきました。しかし、遠方からの関わりでは限界があると感じ、より現場に近い場所で学びたいと思うようになりました。

大学院生を受け入れる募集は全国的にも珍しく、研究と実践を両立できる点に魅力を感じています。地域の特性や課題は実際に暮らす中で理解が深まると考えています。現在は「あやめ園」と「水郷潮来バスターミナル」に注目しています。また、観光客の訪問が特定の時期に集中することや、バスターミナル周辺の都市機能の整備が課題だと認識しています。

今後は、調査研究を進めるとともに、大学や研究室と連携しながら、研究成果を活かしたイベントの企画・実施にも取り組んでいきたいと考えています。

■プロフィール

出身地: 宮城県名取市

所属大学: 東京大学大学院
都市工学専攻

趣味: 陸上(マラソン)、
登山、旅行

今後の抱負:

4月に引っ越してきて、市役所・住民の皆さんの温かさを実感しました。お役に立てるように頑張ります。